

平成26年度 長野県農業大学校 評価表

評価 A:目標を上回った B:ほぼ目標どおりできた C:目標を下回った

学校教育目標	重点目標(中・長期目標)	評価記入欄																	
高度な専門知識、技術ならびに幅広い視野と豊かな人間性をもった、明日の農業・農村を担う優れた人材を育成する。	理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化・経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、寮生活や自らテーマを定めて行うプロジェクト学習等により他者との協調・自己の確立等の社会性を涵養し、21世紀の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	総合評価コメント		評価															
	今年度の重点目標	成果(○)と課題(●)	改善策	評価															
	農業大学校改革の着実な推進による長野県農業を担う人材の育成と就農者の確保を促進する。 1 授業研究を重ね、授業内容の充実を図るとともに、農業実践教育を通じて、自立した社会人を養成する。	○ 3観点の導入や実物、パワーポイント、中間テスト、レポートやアンケート等を用いて授業の充実(1年:49%、2年:76%)に取り組んだ。 ● 明日の農業・農村の担い手となる新社会人として、51名を送り出す。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>内訳</td><td>人数</td><td>比率</td></tr> <tr><td>就農</td><td>9名</td><td>17.6%</td></tr> <tr><td>就職</td><td>32名</td><td>62.7%</td></tr> <tr><td>進学</td><td>3名</td><td>5.9%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>7名</td><td>13.7%</td></tr> </table>	内訳	人数	比率	就農	9名	17.6%	就職	32名	62.7%	進学	3名	5.9%	その他	7名	13.7%	○ 引き続き、授業充実に努める。	B
	内訳	人数	比率																
	就農	9名	17.6%																
就職	32名	62.7%																	
進学	3名	5.9%																	
その他	7名	13.7%																	
2 実践経営者コースの運営の定着化と平成27年度入学者の定員確保に努める。	○ 企業的農業経営者に必要な4つの力を持つ人材育成を教育方針とし、実践経営者コースがスタートした。 ○ 初年度なりの困難さはあったが、滞りなく運営できた	○ コース運営の平年度化に向け、体制整備など基礎を固める。 ○ 総力で定員確保に取り組む。	B																
3 既存コース在学生の就農率向上のため、セミナーや法人との意見交換会を開催	○ 就農率向上セミナー4回、農業法人合同説明会を開催 ○ 先進的農業法人、若手経営者との交流ができた。	○ 就農に結びつく農業法人とマッチングの仕組みづくりを検討する。	B																
4 農大の魅力情報の発信に努める。	○ プレスリリース13回。県魅力発信ブログはほぼ毎週掲載 ○ あらゆる機会を捉えて、農大をPRした。	○ 引き続き、広く魅力発信に努める。	A																

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価										
教育活動	学習指導	授業実習内容の充実を図る	○ ねらい、展開、見とどけの観点で授業を行うとともに実物やパワーポイント等を用いたわかりやすい授業を行ったか。 ○ 中間テスト等により学生の理解度の把握や授業見学期間(10月)を設定して他の教授の授業を見学するなど、授業内容の充実、研究が図れたか。	○ <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>項目</td><td>充実率</td></tr> <tr><td>3観点による授業</td><td>65%</td></tr> <tr><td>実物を用いた授業</td><td>34%</td></tr> <tr><td>パワーポイントを用いた授業</td><td>52%</td></tr> <tr><td>中間テストを用いた授業</td><td>40%</td></tr> </table> ● パワーポイントの授業は理解が進む反面、授業の速さについてこれない学生、ノートを取らない学生も散見された。 ● 授業見学期間は体制が整わなかった。	項目	充実率	3観点による授業	65%	実物を用いた授業	34%	パワーポイントを用いた授業	52%	中間テストを用いた授業	40%	○ 引き続き授業見学期間の設定等により授業内容の充実を図る。	B
			項目	充実率												
			3観点による授業	65%												
			実物を用いた授業	34%												
パワーポイントを用いた授業	52%															
中間テストを用いた授業	40%															
○ 学生に対し、授業、進路、寮生活などに関するアンケートを行い、より良い学校づくりの参考にしたか。	○ コース担任と進路担当とが連携して学生の意見・要望等を随時把握した。	○ 学生の意見・要望・変化などを随時把握し、的確に対応する。	B													
○ プロジェクト活動の進捗に併せ、同コース1年が見学できる機会を設けたか。 ○ プロジェクトは、学生の能力に応じて経営管理力を習得させるよう改善したか。 ○ プロジェクト生産物を自ら販売し、経営感覚を学べるよう改善が図られたか。	○ 1年生が見学する機会は、コース毎に1回実施した ○ プロジェクトに経済性検討を導入した学生率(2年66.0%) ● 販売体験は、農大祭と千曲川マルシェ(千曲市)の2回のみ。	○ 1年生のプロジェクト見学の機会を増やす。 ○ 全学生がプロジェクトに経済性の検討を導入する。 ○ 販売体験の機会を増やす。	B													
○ 現場で使える知識、技術、時代変化に対応した授業内容に教授要目を見直す。 ○ 教授要目に基づき、H27年度の授業カリキュラムが編成できたか。	○ 現場で課題となっている事項、今日的话题やその対応などを授業に取り入れた。 ○ 農場実習と座学との関連性に配慮し、現場で応用できるよう授業カリキュラムを編成した。	○ 引き続き、現場を意識した授業内容に努める。	B													
実践経営者コースの定着を図る	学習指導	効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	○ 各種資格試験や検定試験を奨励し、学生の学習意欲を高められたか。	○ 毒劇物、危険物取扱者、農業技術検定、大特免許、けん引免許等積極的に資格取得を進めた。 ● 合格率が低調な試験区分があった。	○ 就職での有利性を論すなど積極的に奨励する。 ○ 合格率向上に向け授業を改善	C										
			○ 実践経営者コースのカリキュラム、講師、授業計画、選抜方法などコース運営の定着が図られたか。 ○ 客員教授によるプレミアム講義や外部講師による専門的実践的講義により、農業経営者に求められる4つの力を身につけることができたか。 ○ 就農支援スタッフによるきめ細かな就農支援が実施できたか。	○ コース運営のノウハウ・やり方はある程度蓄積できた。 ○ 4つの力、知識・応用力を身に付ける授業を実施した ● 実践現場での能力発揮は今後の課題。 ○ 新規就農者2名は、就農地の決定、農地・農機具の確保までできた。 ○ 後継者5名は、地元関係機関への挨拶や準備(果樹園の確保等)を進めた。	○ 4つの力の現場での応用、定着促進は2年次の模擬経営で行う。	B										
			○ 十分な専攻実習やプロジェクト活動ができるほ表面積やハウス等を用意する。 ○ 実践経営者コースの2年体制に伴う農場や施設等の確保・調整ができたか。 ○ 各コースとも効率的・計画的な農場利用による効果的な授業ができたか。	○ 授業に必要な施設等の確保調整はできた。 ○ 実践コースの模擬経営に向けた農場も確保された。 ● 圃場、ハウス等は用意できたが、ハウス内施設が古く故障が多い。 ● 1年の実習時間が乏しく、作付を行っても効果的な活用ができなかった。	○ 授業実施計画に基づく作付(品目・面積・時期等)を行う。	B										
○ 各コース別の年間作付け計画に沿った農場管理ができたか。	○ 作付け計画に沿って、ほぼ計画どおり実施できた。	○ 年間作付け計画に沿った農場管理を行う。	B													
○ 農場管理マニュアルを整備し、適切な休日の農場管理が実行できたか。	○ 実態に合わせたマニュアルに直し、職員に徹底。 ● 家畜の飼養状況に応じたマニュアルが必要。	○ マニュアルの更新及び報連相の徹底。	B													

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
進路指導	進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、就農率向上を目指す	○ 1年生は10月末を目途に将来の進路を決定するよう指導できたか。 ○ 2年生は2月末を目途に就農及び就職先等決定するよう指導できたか。 ○ 就農率の向上に向け、2年生は特別教養演習を、1年生は就農演習を計画的に実施できたか。	○ 1年生は、10/下～11/上に3者面談を実施した。(11月現在、方向付け率94%) ● 2年生は、4/24に3者面談。(2月20日現在の進路決定率86.3%、就農者数9名、就農率17.6%) ○ 随時、積極的に就職活動するよう指導した。 ○ 1年生の就農希望者には、就農演習に加え、農業生産法人での体験実習を追加実施した。	○ 2年生の進路未決定者には、引き続きコース担任と進路指導担当とが連携して継続指導する。 ○ 1年生には、就職情報の早めの収集と行動を指導する。 ○ 就農演習、特別教養演習を計画的に実施する。	B
			○ 就農率向上セミナーなど進路実現のための授業内容の充実を図り、計画どおり実施できたか。	○ 就農率向上セミナーを4回実施した。	○ 就農実現のために内容の充実を図る。	B
	就職・進学情報の提供	○ 学内掲示板、HRなどを活用した求人情報の提供がなされたか。	○ ハローワークの求人検索システムから出身地域別に最新情報を入力し掲示した。	○ 学生が主体的に掲示板、インターネット情報を確認するよう指導。	B	
		○ 法人就農リストの作成や法人合同説明会等を通じ就農率向上への取組む。	○ 随時、農業法人の求人リストを掲示。法人合同説明会を開催し、相談会でのマッチングによる就農率の向上に取り組んだ。	○ 情報提供や説明会等を開催し、就農意欲の向上を図る。	B	
	生活指導	社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成に努める	○ 交通安全・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 ○ 学年担当会議の定例化により教授間の情報共有、対策の検討が図られ適切な指導ができたか。	○ 交通安全、防犯、健康講座を実施。 ○ 外部講師による健康講座は、学生と年代の「思春期ピアカウンセラー」と協働による参加型の授業や寸劇が行われたことから、学生たちへの啓発効果は大きかった。 ● 2年の学年会議は、繁忙から後半、定例開催できなかった。	○ 引き続き、各種講座を開催する ○ 学年会議の時間内定例開催を行う。	B
			○ 寮生活や自治会活動を通じて、規律ある生活や組織運営など社会人としての意識を高めることができたか。 ○ 学生部の打ち合わせが定期的に行われ、情報共有・役割分担の明確化が図られていたか。	● 寮生活では規律ある生活がうまくできていなかった。門限時間外の外出や深夜の就寝など、寮生活の実態把握や生活指導が不十分であった。 ● 学生部の役割は明確であったが、打合せが定期的に行えず情報共有が不十分であった。	○ 引き続き、根気よく指導を行うとともに、教授間の情報共有を図り、全員で指導する体制をつくる。	C
		自他の生命を尊重する精神を養い、豊かな心を育成	○ 1年生と2年生を同室とし、先輩・後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。 ○ 新寮での自立性、協調性を高める工夫が検討されたか。	○ 寮運営・部屋配置案は学生が作成し、前期は1・2年を同室、後期はコース毎・学年毎の同室とし、自律性、協調性の醸成に効果があった。 ● 12月下旬のJA協栄寮への引越し、1月下旬・2月上旬には退寮と慌ただしく、新寮での自治活動等を検討する体制が整わなかった。	○ 新寮は、個室のため、共同生活の良さをいかに養うか検討する。	B
	教育設備の充実と適正な管理	農業機械や施設機器の充実と適正な管理	○ 水利組合と連携して水源確保に努める。 ○ 予定された農場実習等の農作業に必要な機械・設備は充分確保されているか。 ○ 農業関連企業と連携により、導入した農機・設備の効率的な利用ができたか。	○ 水源ポンプは、当初の6月完成予定を大幅に過ぎ11月となったが、学生の水稲プロジェクトは実施できた。 ○ 必要な機械・施設は確保できた。 ● 導入機械の効率的な使用が今後の課題。 ○ 農機具メーカーとのコラボ授業(4回)は学生に概ね好評であった。	○ 導入した機械の操作方法についての職員研修を行う。	B
			○ 農業機械・施設・機器の故障・修理情報が職員間で共有され、適切な管理運営は行われているか。 ○ 使用できない機械の廃棄が行われたか。	○ 故障修理情報を掲示し、共有化を図った。 ○ 共用する機械の使用簿を整備し、管理運営の適正化を図った。 ● 使用簿の記録の徹底が課題。 ○ 不用機械について廃棄処理を実施した。	○ 農場総合管理棟の機械配置、メンテナンス等使用のルール化を図る。 ○ 使用簿への記入、使用後の整備点検、修理を要しない軽微な損傷の報告を徹底する。	B
			○ 実習棟・機械庫等は、定期整頓日の設定などにより整理整頓がなされているか。	○ 月1回の定期整頓日を設定し、朝会で周知した。 ○ 農機具庫は、担当職員のみで清掃した。 ● 専攻棟の教室は、各コースで実施したが、共用部分は徹底できなかった。 ● カリキュラムの中での定期整頓日の徹底が必要。	○ 年間計画・月別計画に基づき、定期整頓日を徹底する。	B
		学校用地や施設の適切な維持管理	○ 農場以外の学校用地や施設の維持管理が適切に行われたか。	○ 学校行事の前に職員・学生で清掃を実施した。 ● 体制が整わず、定期清掃の回数が少なかった。	○ 定期清掃日を設け、適切な維持管理を行う。	C

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
学校運営	農大の魅力発信と学生確保の活動	学生募集のPRを更に充実する	○ 学生募集・オープンキャンパスのポスターを作成・配布し、農業大学校の関心を高めることができたか。	○ 県内外の高校等に学校案内、入試案内、学生募集ポスター及びオープンキャンパスのポスターを配布した。 ○ 県HPへも掲載した。 ○ 学校案内は実践経営者コース3,000部と総合版2,100部を別冊とし、利便性に配慮した。 ○ オープンキャンパス来校者数173名(生徒93名、保護者80名)(前年132名)	○ 引き続き効果的媒体によるPRの充実に努める。	B
			○ 実践経営者コースは、大学、普及センター、市町村、農協及び県内外の相談会等あらゆる機会を通じて、情報提供ができたか。 ○ 実践経営者コースの平成27年度入学者の定員確保ができたか。	○ ターゲットを明確にして其々に適した情報提供方法を検討し実施した。(就農相談会12回、112人。大学校・短大校19回訪問。76市町村・20JA広報等) ○ あらゆる機会を捉え、広くPR。来年以降の学生募集につながる可能性あり。 ○ 個別案件には農大職員が直接、説明・働きかけた。 ● 定員10名→応募者9名→受験者8名	○ 潜在的入学希望者に情報を繋げる多様な方法、ルートを検討する。 ○ 定員確保に向け、教職員が一丸となって取組む。	C
		ホームページの充実を図る	○ 既存コースは、新たな観点から広く県内高校への訪問活動を行い、進路担当教諭へは民間企業ガイダンスを活用し理解を深めると共に、生徒にとって必要なアドバイスができるよう情報提供を行ったか。 ○ 既存コースの平成27年度入学者の定員確保ができたか。	○ 訪問高校59校(県立43校、市立1校、私立15校) ○ 入学実績のない高校24校へも訪問した。 ○ 高校生進路ガイダンスへの参加9校 ○ 学校訪問時の説明基本マニュアルを整備し均一な説明を可能にした。 ○ 定員40名→応募者63名→受験者63名	○ 引続き、農大の魅力のPRに努め、民間企業のガイダンスにも参加。	B
			○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援を、農業関係者、教育関係者や広く県民に発信できたか。 ○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。	○ 入試案内、オープンキャンパス、特別公開講座、農機具メーカーとの協定授業、農大祭等の行事を県HPで告知し、新聞、雑誌、テレビ報道等を通じて紹介した。 ○ 県魅力発信ブログに、ほぼ毎週記事を掲載した。 ○ 特徴的な授業(農業機械コラボ授業、プレミアム授業・大久保、生物学実験等)を動画に編集してHPにアップし、農大の魅力を発信した。	○ 今後とも、農大の魅力発信の充実を図る。	B
	その他	予算執行の適正化を図る	○ 計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場はコース別に、管理運営は費目別に執行状況を管理できたか。	○ 農場はコース別に、管理運営は費目別に整理した上で毎月情報提供し、計画的な予算執行に努めた。 ● 機械施設の老朽化に伴い想定外の修繕費を要する	○ 引き続き、計画的・効率的な予算執行に努める。	B